

2025年度

Peach Women's Business School

## 第14回 合同特別公演

登壇者：株式会社日本総合研究所

調査部長 チーフエコノミスト

石川 智久 氏

講演テーマ：「2026年の世界経済

～構造変化にどう対応すべきか」

# 2025年度PWBS 第14回アンケート集計結果

研修日：2026年3月4日(水)

登壇者：株式会社日本総合研究所 調査部長 チーフエコノミスト 石川 智久氏

講演テーマ：2026年の世界経済～構造変化にどう対応すべきか

## (1) 本日の講義の内容で、特に印象に残った点を記述してください。(200字程度)

世界経済の変化を、世界・企業・自分自身という大・中・小の視点に落とし込んで捉える必要があるという点が、自分の課題と重なり印象に残りました。また、資産を持つ層は株や金、暗号資産を通じて富を拡大する一方、投資余力のない人ほど物価高の影響を受け、格差が拡大しているという点は実感があり、問題意識を持ちました。AIによるホワイトカラーの代替についても、AI活用を推進する部署にいる立場として、使いこなす側でいられているかを常に意識したいと感じました。

成功している企業の特徴というテーマが納得感のある内容で、自社と照らし合わせることでまだ改善できる点がありそうと感じました。当たり前を愚直にできるかというお話がありましたが、企業だけでなく個人にも当てはまる話なのでそのためにも少しずつ良い習慣をつけたいと思いました。また、グループディスカッションでは様々な企業の事業に関して活発に話が出来たので、非常に面白い時間でした。

前回の合同見学の際も感じたことですが、Peach Kokorozasi School Plusの方々の発表内容に関しての理論の組み立て方やまとめ方。

「低いハードルから、習慣を身につけるようにする」という言葉です。何か新しいことを始めようと思っても、日々の生活に追われる中で、なかなか時間を確保できなかつたり、継続できなかつたりすることがこれまで多くありました。まずは、無理のない小さなことからでもよいので、何か一つ取り組んでみようと思いました。

先生のご実感に基づく「東京と大阪でも同一の事象に対する受け止め方が異なる」というお話が特に印象に残りました。地域によって生活や経済を取り巻く環境や前提は大きく異なります。東京と大阪でそれだけ違えば、日本全国ではなお一層大きな隔りがあるのだろうと感じました。他の地域が抱える危機感を正しく捉える難しさと、丁寧なヒアリングの重要性を再認識しました。また、こうした点は、業務における他部署や他支店との連携においても同様だと感じました。

世界情勢や地政学が大きく変動する中で、それが企業活動へどう影響するのかを、さまざまな業界・職種の参加者の視点から直接聞いた点が非常に興味深かった。また、新しい取り組みは小さく始め、仲間や予算を集めながら成功例を大きく広げていくという方法は、実践的で大変参考になった。さらに、日々の少しの自己研鑽が長期的なキャリアを支えるという点も印象的で、世界の変化を大きく捉えながらも小さな継続の大切さを実感した。

世界、企業、自分の3つの軸で物事を捉える点です。一年間PWBSの研修を通じて、「アンテナを高く」、「視座を高く」、「志を高く」ということを意識してきました。世界のことに目を向け、今後の世界のトレンドを考え、自分の働く会社や周囲の会社の置かれている状況を理解することは、自分の生き方を考えることにつながるということを改めて確認しました。

ワークの中でトレンド変化が企業に影響を与えるものを考える中で、同業種でも地域によって大きな差があることに驚きました。各地域に支店や支社があるので、同じ会社の同じ部署でも、そこから学べるものがたくさんあると感じました。また様々な意見を聞くことができ、それに対して先生の考えも教えていただきとても面白いワークでした。自分の考え（視点）はまだまだ低い位置にあるなと感じました。

印象的だったのは、先生の体験談も交えながら語っていただいた若手のビジネスパーソンに伝えたいことです。とくに、日記と読書についてはぜひすぐにでも習慣化したいと思いました。日々の仕事の忙しさを言い訳に、いろいろな意味で自分を大事にできていないなと反省しました。読書でインプット、日記でアウトプットを繰り返すことで、自分自身を振り返り、磨き続けることに取り組みたいと思います。その中で、先生が仰っていた大・中・小の視点で物事を捉え、行動に移していけるような人材になりたいです。

世界経済を自身と結び付けて考えることが普段あまりなかったので、大変勉強になりました。講義を通じて、フットワークを軽くし様々な分野にアンテナを張ることの重要性を実感しました。日本では、英語の情報が日本語に翻訳されるまでに時間がかかり、1年遅れの情報になるというお話でしたので、翻訳機能などを活用して、新鮮な情報を入手していきたいと思います。またPKS+との合同開催でしたので、グループワークではリーダーシップを発揮していただき、意見交換がとてもスムーズに進行し、異業種の視点から世界経済の影響を考えることができた点が非常に有意義でした。

ご講義有難うございました。前半・後半のグループワークともに大変勉強になりました。アメリカ、中国が大きく動く中で、日本の立ち回りが非常に大切な時期なのだと感じました。（外国人労働者に限らず）欧米の事例に学ぶべきことは多いはずですが、柔軟に取り入れる姿勢があるように見えないのが個人的には気がかりです。先生の仰っていた「日本の企業はPDCAのPばかり」と同様、ネガティブな意味での日本らしさに通ずるように感じます。

世界経済や日本経済が大きく変化する中で、米中対立の長期化や物価高などの環境変化により、これまでのデフレ前提の考え方を見直す必要がある点が印象に残った。また、成功している企業は「とにかく行動する」「社員と活発に議論する」「長期的なビジョンを持つ」などの特徴を持つとされ、主体的に学び行動する姿勢の重要性を強く感じた。

2026年の米中（世界）の動向が今後の中期的な世界経済の流れを見通すうえで重要な分岐点になると感じました。一時的な緊張緩和に見えても、実際にはAIや資源確保など長期戦を見据えた構造調整が進んでおり、日本がすべきこととして供給力の強化や貿易・投資先の多角化、戦略的な外国人労働者政策が重要である点が強く印象に残りました。

2026年の世界経済についての講義、大変興味深く拝聴いたしました。特に「今後のビジネスでは調達が必要になる」という点が、特に印象に残っております。現在、原料調達を担当しており、今年は価格や環境の変化が非常に大きいと実感しております。日本と米中の関係が難しくなる中、高市政権の動向にも注目しております。講義で先生が高市さんについて「お金の使い過ぎ」「デフレマインドが残る」と指摘されていた点にも納得いたしました。

本日の講義から、あらためて「世界は密接につながっている」ということを実感しました。変化の激しい中で、自分自身も柔軟に変わっていきたくて考えております。まずは身近な習慣から見直し、中長期的な視点を持って変化していければと思います。

世界の動きに合わせて柔軟に挑戦し続ける企業ほど成長していることが心に残った。社員同士でよく話し合い、地域とのつながりも大切に作る姿勢は、今後より意識したいポイントだと感じました。価格だけに頼らない価値づくりや、現場との対話をもっと増やすことが課題になりそうだと気づかされました。また、日記や読書など“無理なく続く良い習慣”を身につけ、個人としての視野を広げていくことも変化に強い組織づくりに繋がると学びました。

AIの急速な進化により、これまでホワイトカラーが担ってきた業務の多くが代替され、将来的にはブルーカラー領域にも広がる可能性がある点が印象に残りました。さらに、アメリカでは入社3年目までに行う業務をすでにAIが担っているという話も衝撃的でした。また、「ビジネスチャンスは隣にある」という言葉から、オープンイノベーションの重要性を実感し、社外との接点を持つことが企業の成長につながるという視点を改めて学びました。

2025年の世界・日本経済を振り返り金利とAI（人工知能）の抽象的な期待から厳しい現実のルールへと変わった転換期となり少子高齢化が進む中、AI（人工知能）は画面の中の便利なツールから自ら考え、現実を動かす存在となりホワイトカラーからブルーカラーへとリプレースメントされているということが印象的でした。これからもっとAI（人工知能）が進化して行く中、人間でしかできない事は何かAIに寄り添いながらどのような働き方をしたらよいのか考える時間となりました。

最も印象に残ったのは、中長期のトレンドとして挙げられていた「多死社会」です。今回の講義で初めて知った言葉でしたが、高齢者が増加し、亡くなる人の数が増えることで新たな需要が生まれたり需要が高まったりすること、その状況から新たなビジネスが創出されることが興味深かったです。人や企業や社会の困りごとにはビジネスのアイデアが眠っていると思います。困りごとを捉え、どのように解決するか、解決策をどのようにビジネスにつなげるか、という視点や考え方の重要性を学びました。

本講義では、米国の自国第一主義やデフレ時代の終了といった激動の時代において、日本が長期的な供給力強化や投資の多角化に注力すべきであると学びました。特に印象的だったのは「成功する企業の特徴」で、価格支配力を持ち、伝統と斬新さを両立させている点です。若手への助言として、タイミングを重視した仕事術や、毎日30分の勉強など、小さな良い習慣の積み重ねが重要であると再認識しました。

講義で特に印象に残った点は、「タイムマネジメントを考える。仕事はタイミングが8割。」というお話です。担当業務の進め方を振り返った際に、企業側の都合で進めてしまう場面があり、ユーザー目線で最適なリリース時期を見極める重要性を改めて感じました。最も効果的な実施タイミングを起点にバックキャストし、計画を立てる必要性を感じました。

経済についてはニュースや新聞、調査資料などで目にする機会は多いですが、なかなか自分の分野以外について、自分の中で理解して落とし込むまでは出来なかったため、今回の講義で現在世界や日本で起こっていることについての大枠を理解出来よかったですと感じています。経済状況を背景に仕事を考える感覚を大事にしていきたいと思います。経済についての講演があれば、是非聞きに伺いたいと思いました。

いくつかありますが、後半で行われたグループワークにおいて、「1.世界や日本のトレンド変化で皆さんの企業に一番影響を与えそうなもの」についてディスカッションしたことです。

お互いに業界を知り合うことができ、自社への理解度も再確認しました。また、世界情勢のどの面が繋がっているのかを考える良いきっかけとなりました。

人に関する業務を行う中で、外国人との共生やAIが主流となる時代において、優秀な人材をどのように見抜き、育てていくかといった課題を再認識しました。製造現場での採用は年々難しさを増しており、自動化やDXを進めつつ、外国人雇用の受入れ体制を整えることも並行して進める重要性を感じました。